

第8回オール慶応ブリズベン囲碁ツアーについて

2011. 6. 16. 氣賀 康夫



2004年に始まったこのツアーも回を重ねて今回が第8回になる。企画の日洋航空金澤社長のおだてにのって未だに団長を引き受けているが、そろそろ引退の時期と思っている。

今回はいつもより二ヶ月遅れの6月にツアーが企画されることとなったが、参加者が22名と過去最大の規模となった。有志4名が二日早く6月4日に関西空港から飛び、現地入りしたが、ツアー本隊は6月6日に成田を飛び、7日早朝にゴールドコースト空港に無事到着し、今回も、いつものように愉快的なハプニングだらけの日程が始まった。



まず、本隊の眠れぬ夜行便の7日早朝の空港到着早々であるが、迎いのレンタカーが何処にも見当たらない！それもそのはず、二日前に到着した運転手の菊田さんに出迎いの依頼は全く届いておらず、本隊の到着便すら一切知らされていなかった。四人の代表である野村さんの日程表にも7日は「終日自由行動」と書いてあるので、この日は四人全員がその日は寝坊することに決め込んでいたのであった。



それでも、本隊は何とか人間と荷物を二台のレンタカーに詰め込んで、空港から日洋航空豪華ビラに向かうこととした。この日はゆったりしたスケジュールで、ゴールドコーストを少し観光し、夕食は結団式を兼ねてビラ近くの中華料理で取ることになっている。この夕食会では和気あいあいの楽しい顔合わせであったため、みなアルコールが回り、その後に予定していた参加者リーグの対局はやむをえず延期となった。

翌8日は、ゴルフ組のほかはオーストラリア動物園訪問が予定されていたが、希望人数を数えると運ぶのに車一台では足りないことがわかった。ところが車は二台あるのだが運転手が足りない。そこで、団長は人数調整のためピラに残ることとした。すると、ピラで暮を打ちたいという人が多数現れ、今度は一転して団長が人数調整のため動物園に行くこととなった。動物園ではこのツアーで初めてタスマニアデビルに会うことができた。この珍獣は夜行性で昼間に行くときだいたい洞穴で寝ているのである。また、成島、伊澤の両氏はコアラを抱いて記念撮影。これは期待以上に素敵な写真が撮れた。結局、この日はゴルフ組、動物園組それとプリズベン市内観光組に三分化される結果となったが、夜は韓国の焼肉料理で全員集合、食後は修正スイス方式の参加者リーグの第一局が打たれることとなった。

9日はスプリングブルックの世界遺産観光の企画である。参加者の日頃の心がけがよかったらしく今回のツアーではこの日だけが快晴となった。山に入り予定通り現地に着いたが、最終目的地がよくわからず、走っている道がいつのまにか私有地に入り込み、ナビもこの先は道がない！と表示する始末。やむを得ず三台の車がそのままターンして引き返し、途中の建物にいた初老の女性に親切な説明を受け、近くの滝を見る展望台を訪ねることができた。これはさすがに素晴らしい景観であった。それから、案内されたレストランに行き昼食をとったが、これが田舎に似合わず高級であり、料理も上等であった。その後はゴールドコースまで下りてそれぞれに土産物を買って帰路についた。この日は夜のプリズベン川クルージングが企画されていたのであるが、調べたところこの日はクルージングは欠航ということが判明した。こんなことなら予め調べておけばよかったと反省したことがある。

そこで、一部の食通は奮発してリバーサイドの有名レストランで海鮮料理を食べることにしたが、6月は思ったより寒く、カジノの駐車場から歩く15分は厳しいという判断でレストラン近くの駐車場を探すことにしたが、これがなかなか見つからないのである。最後に駐車場の入り口をようやく見つけて車を止めホッとして、外に出たら、それが何とカジノの駐車場の目の前であった。一時間かけて元に戻ったわけである。しかし、この夕食は団長の印象ではこれは8年間で最も美味しい料理であったと思う。料理はよかったが駐車場探しに60分、帰りはまた駐車場での車探しに30分かかった。今考えても不思議な駐車場である。結局車は最後まで発見できず、仕方なく来たときの遠回りの道を逆行してようやく車のあるところにたどり着いた。結局合計1時間半ロスして帰った計算なので、ピラで待っていた方々に「どうしたのだろうか？」と心配をかける結果となってしまった。この日の対局は終わりが遅くなったのは当然である。



珍獣のお尻をなぞっている成島さん

10日金曜日は市内観光とショッピングセンターでのショッピングである。市内のコアラパークもクーサ山展望台も寒風が吹き、とても寒かった。それと比べるとショッピングセンターは天国である。そして、前日クルージングをしそこなった一行がこの日のクルージングを楽しむことにした。本来90ドル近いクルージング料金が70ドル弱に割引となっていた。団長も案内係として同行したが、料理では牡蠣と海老が一番のご馳走であった。ワインを沢山飲んだことは勿論である。



「土曜の夜の夕食風景」
 左手前、ハーディー元オーストラリア囲碁協会会長、元プリズベンクラブ幹事長、
 左二人目、山下師範(九段格)、三人目成島President Elect、
 右手前氣賀団長、右二人目新プリズベン幹事長デービス氏、右三人目プリズベン
 クラブ、ベル会長(スポーツ関係の医師)

11日の土曜日は競馬見学が予定されていたのだが、競馬場入場券がとれず中止となった。団長は一部の希望者をピラから30分余で行かれるクインズランド州最大のシロメ・ワイナリーに案内することとした。ここでは、5ドルで、8種類のワイン試飲できる。普通、テイスティングというと口に含んだ



参加者のリーグ戦風景

ワインは流しに流すのであるが、どうしても貧乏人は胃に流し込んでしまう。すると段々と酔いが回って、味の違いがわからなくなる。それでも、スナックの昼食にさらにビールを注文する人もあった。夜は日洋鍋と称する金澤社長主催の夕食会、プリズベン囲碁クラブの会員も15名ほど加わり、素晴らしい国際交流ができた。

12日は最終日、午後2時から6時にかけて恒例のオール慶応対プリズベン囲碁クラブの親善対局が行われた。一人二局、親善といっても皆負けにくい気持ちが強い。結果は日本側の21勝16敗とかなりの差がついた。団長はプリズベンのベル会長と一局お手合わせしたが、これは7年ぶり、7年前には痛い逆転負けを喫しているの、今回は雪辱ができてほっとした。7年前の敗局は月刊碁の記事に棋譜を紹介してあるので参照願いたい。表彰式に移り、団体賞としてベル盃が勝利チーム山下主将に手渡された。このカップはまだプリズベンに手渡したことがない。引き分けが一回あるだけである。そして、副賞はワインーダース、慶応側の団長から勝利チーム山下主将に手渡される。ただし、これは夕食に提供する慣わしとなっている。なお、今回は、成島賞が全勝者全員に手渡された。成島さんのお立場はまだ内定ではあるが次期団長である。これをPresident Electと称する。また、この場をかりて、参加者リーグ戦の表彰も行った。Aリーグは細野さん、Bリーグは成島さんが山下師範から優勝賞品を受け取った。表彰式が終わると、今宵はプリズベン側主催の夕食会、ベル会長は15年前に購入したという一本時価5万円もするというワインを6本も空けて皆に振舞った。これは勿論大好評であった。見ていると、夕食会が終わっていないのに、あちこちのテーブルで親善対局が始まる。成島さんは去る一月にネット碁の親善試合でお相手をしたアミーリア・グレイ女史と再対局を楽しまれた。後から聞くと、全部で4局打って打ち分けであったとのことである。夜も更け、現地の方々が全員引き上げてから、こちらの有志は反省会と称し最後の晩を大いに楽しんだ。残っていた高級ワインと一本500円～1000円という現地の大衆ワインと三本をA、B、Cと大書したグラスに注ぎ、目隠し試飲する余興をやってみたが、高級ワインを当てそこなった人が10人中2人もあり、「味覚はどうなっているの?」とからかわれていた。なかなか楽しい余興である。本当は、例年だと、ここで南十字星を観てからベッドに入るのが慣行なのであるが、今年はどうとう一度も南十字星を見ることができなかったのが心残りであった。

13日の帰国便は11時くらいの出発であるが、安全をみてピラ発は7時半、空港まで車で一時間強、だから、免税店で最後の買い物をするには十分のゆとりがあった。なお、今回のツアーの格安航空券の場合、機内では飲み物も食べ物はない。すべて有料である。したがって、空港で昼食のサンドイッチを買い求めて搭乗する人も多かった。帰りの便の飛行時間は約9時間、本を読むも、居眠りするも自由、楽しいツアーの思い出話に興ずる人が多かったが、碁罫紙を使って対局をする囲碁狂も二組あった。7時過ぎに無事成田到着、自由解散となった。さて、来年のツアーはどうなるのであろうか。

